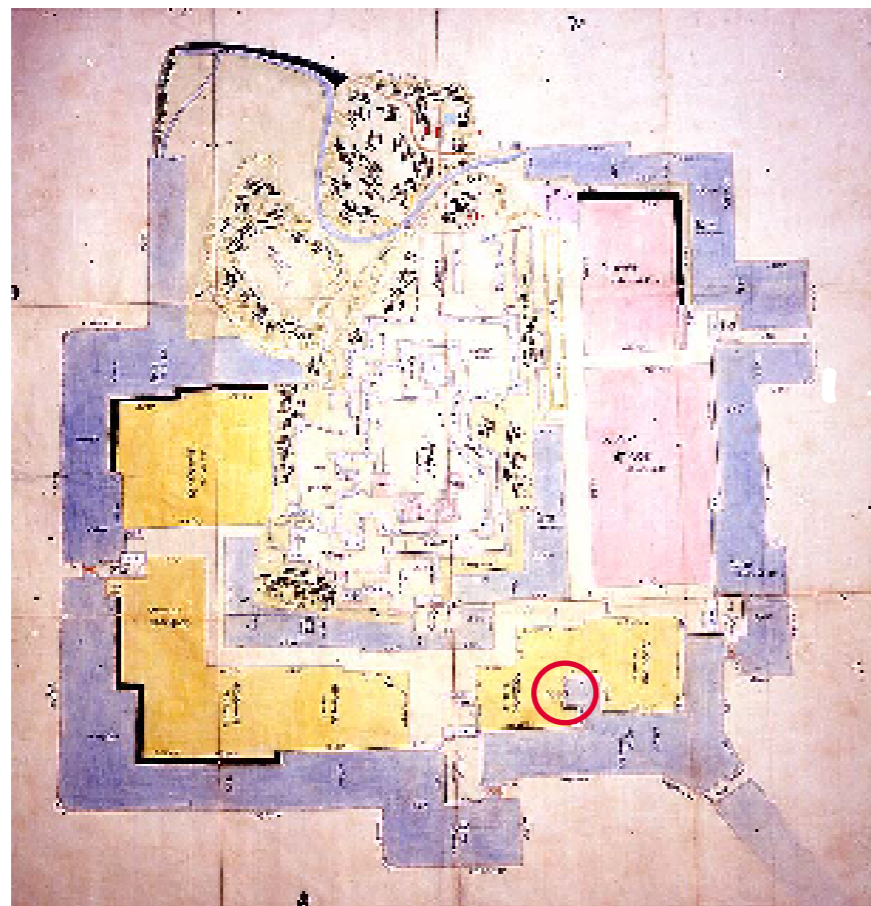


えきまえじょうかく
山陽新幹線・福山駅

(広島県福山市)



「御城内絵図」(城郭研究室蔵)
▲ 阿部時代の安永図と酷似する絵図

ふくやまじょう
福山城

福山駅は、福山城三の丸跡に築かれているので、山陽新幹線ホームに立つと本丸にある伏見櫓がほぼ同じ目の高さで間近に見ることができます。これだけ近くで眺めのそこそこ良いと、かえって「(城を見るために)わざわざ途中下車するまでもないか」と思う人も少なくないかもしれません。

福山城が築かれたのは元和年間。福島正則の改易後、備後国で10万石を増された水野勝成が大和郡山より移ってからのことですから、姫路城では西の丸の造成時期と重なります。

このとき、備後国の中心的な城郭は神辺城でしたが、水野氏は入封に際して芦田川デルタに新規築城することにしました。近世山陽道と瀬戸内航路との結節点となりうる場所が選ばれたのでしょう。実際、城の南面に掘られている二重の堀のうち外堀は運河によって海に通じていたそうです。その名残が「御水門」(○印)だといわれています(吉田和隆『備後福山城』1998)。

福山城には第二次世界大戦の空襲で焼失するまでは、天守が現存していました。天守の北面外壁が鉄板で覆われた特異な建物としてよく知られていたものです。城地が北部の山地から南に突き出た支尾根に選ばれたため、尾根続きを掘り切っても防御上北側が手薄となるためといわれています。その鉄板に由来したのか、「敵追(鉄覆)山朱雀院久松城」という城号まであったということです(『復元大系日本の城』6、1992)。

特に具体的なデータを調べたわけではありませんが、瀬戸内海の廻りには立派な近世城郭がいくつも建設されたという印象があります。戦前まで天守が残っていた城が多かったということにもよるのでしょう。

福山城は明石城と同時期に築かれたもので、かつ幕府の少なからぬバックアップがあった点でも共通しています。両城の構造を比較検討することで、この時期の「徳川系」とでもいえるような城郭の特徴を窺い知ることができそうです。

さてこの城の特徴は図を見てもわかるように、まるで軍学の教科書に出てきそうな複雑な墨線の出入と帯曲輪の配置です。これを重層的な火線を実現しているとする軍事的評価もあります(千田嘉博『図説正保城絵図』2001)。また、城の西側には二重や三重櫓が多く配置されており、西国の外様大名に備えているという見方もありますし、城の西を通る山陽道からの眺めを意識したともいわれています(吉田前掲書)。確かに、古写真で見るとその威容は見せつけるに価値あるものだったと思われます。また、伏見櫓に象徴されるように福山城には伏見城から建物が移築されていますので、威容ばかりでなく「格式」も意識して築かれたようです。

下図は本丸部分を拡大した写真です。本丸が一つの大きな曲輪空間として造成され、その内部が塀などで区切られて機能分化させていることがわかります。天守は塀で囲まれた閉鎖空間の中央にあります。この絵図は阿部時代と想定されるので、御殿の北半分はほとんど撤去されています。これは阿部氏が定府のために使用されなくなった建物を撤去したためと考えられ、それでも本丸の南半分がそのままなのは儀式空間として不可欠だったからのようです(『復元大系 日本の城』6、1992)。恐らく、そうした儀式遂行上必要最低限な施設だけは残したのかもしれませんが。その中で台所がやたら大きいのが気になります。姫路城でも備前丸(本丸)の御殿は江戸初期に三の丸へ移りますが、大台所は明治15年まで残っていました。御殿が本丸から二の丸や三の丸へ移る傾向がみられる中で、カウントしたことはないですが、台所が本丸に残る例は他にも多いのではないのでしょうか。

また、儀式という機能上の意味だけでなく、「伏見御殿」(○印)の名が示すようにこれらが家康の伏見城の建物だったという「格式」を支える由緒とも無関係ではなかったようにも感じられます。

ところで、水野家は築城に際して幕府から金12600両・銀380貫を貸与されています(『水野勝成とその時代』1992)。下賜された金ではないので、水野家は少しずつ返さなくてはなりません。かなり重たい「住宅ローン」のようなものです。途中、島原の乱などがあり、返済は滞りがちにな

ったようですが、その後どうにか完済したということです(吉田前掲書)。

しかし、完済の5年後(元禄11年)水野家は5代で断絶してしまいます。せっかく「ローン」が終わったというのに…。



■この絵図から、福山城には大きな「内枳形」や「外枳形」の城門が要所を占めていることが見てとれます。城跡には、復興天守内に福山城博物館、西側の二の丸に広島県立歴史博物館があります。駅から近いので便利です。



"Shiro Fumi" No.45 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.